

2023年度関私教協北部地域第1回研修会

教職課程自己点検・評価の取組

白鷗大学教職支援センター副センター長 上野耕史

本学の概要

白鷗大学



経営学部／経営学科	400名
法学部／法律学科	270名
教育学部／発達科学科	
児童教育専攻	220名
スポーツ健康専攻	120名
英語教育専攻	50名
心理学専攻	40名

年度	免許取得者数（人）					免許取得 実人数 （人）	卒業者 数 （人）	免許取得 割合 （%）
	幼稚園教諭	小学校教諭	中学校教諭					
			社会	保健体 育	英語			
2022	79	154	16	75	55	380	468	81.2

※経営学部／経営学科 中・社・高・公民、高商業

法学部／法律学科 中・社・高・公民 取得可能

白鷗大学 教職支援センター

○目的 各学部・専攻・コース等と協働して、本学に共通する教育職員免許状・資格を取得させるための教職課程・保育士養成課程（以下「教職課程」という。）及び関連業務を運営し、教職課程における教育職員の養成・採用・研修など総合的な教育指導・支援に関する企画・運営・評価・改善、社会的連携の強化などの推進を図り、本学における全学的な教職課程マネジメントおよび教員研修を円滑に行う。

○設置 令和4年4月 ○組織 センター長 1名 副センター長 1名
 教 員 教育学部 6名、経営学部 2名、法学部 2名
 事務局 本部 2名 教育学部 4名

2022年度 教職課程の自己点検・評価：概要

目的

- ・自学らしい教職課程のあり方を再確認するとともに、教職課程におけるFD・SDの課題を見いだし、教職課程の授業改善や質向上につなげる。
- ・教職課程を主に担う教員が理念・目的等を共有する契機とする。
- ・教職課程の運営に関しての教職協働の意識を高める。

方針

- ・2022年度はシュミレーションとして位置づける。2023年度に本格実施する。
- ・同時期に大学認証評価も実施されることから、大学認証評価の評価項目と重なり具合を吟味検討して、可能な限り認証表評価の記述内容が活かされるように作業分担を配慮する。
- ・大学認証評価のスケジュールに合わせながら作業を分担し、夏休みに自己点検評価シートを作成し、後期に点検・修正する。

スケジュール

2022年 5月	教職支援センター： 自己点検・評価の実施方針の決定
7月	教 授 会： 自己点検・評価シート作成依頼、自己点検・評価シート作成の共通理解 教職支援センター： 関係委員会等と連携し、自己点検・評価シート作成のための情報・データ等の連絡・調整
8～9月	関係委員会等： 教職協働を基本に据えた作業分担の下、各担当委員会は対象項目の自己点検・評価を実施→自己点検・評価シート（素案）の作成・提出
10～11月	教職支援センター： 自己点検・評価シート（素案）の点検、修正依頼 根拠資料・データ等の所在場所の確認
11～12月	関係委員会等： 自己点検・評価シート（素案）の修正・再提出
2023年 1～2月	教職支援センター： 自己点検・評価シートのとりまとめ 教職課程の自己点検・評価報告書の作成
3月	教職支援センター： 教職課程の自己点検・評価報告書の提出 報告書を基礎にした次年度の教職課程アクションプランの策定

自己点検評価報告書の構成

I 教職課程の現状及び特色

II 基準領域ごとの自己点検・評価

1 基準領域 1：教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

(1)基準項目1-1 教職課程教育に対する目的・目標の共有……………（3 観点）

(2)基準項目1-2 教職課程に関する組織的工夫……………（6 観点）

2 基準領域 2：学生の確保・指導・キャリア支援

(1)基準項目2-1 教職を担うべき適切な人材（学生）の確保・育成……（4 観点）

(2)基準項目2-2 教職へのキャリア支援……………（5 観点）

3 基準領域 3：適切な教職課程カリキュラム

(1)基準項目3-1 教職課程のカリキュラムの編成・実施……………（8 観点）

(2)基準項目3-2 実践的指導力養成と地域との連携……………（5 観点）

III 総合評価

IV 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

V 現況基礎データ一覧

課題と解決策

- ・自己点検・評価活動に関わったことのある教職員が少ない
- 関係委員会が初めての自己点検を行いやすいように**作成例を配付**

「自己点検・評価シート」作成例

自己点検・評価シートNO. 2

提出日 月 日 評価担当者【 】

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育に対する目的・目標の共有

観点 2：育成を目指す教師像の実現に向けて、関係教職員が教職課程の目的・目標を共有し、教職課程教育を計画的に実施している。

〔現状説明〕

本学の教員養成の目標及び当該目標を達成するために、関係教職員が上述した本学の教員養成像の目標を前提として、下記のような教職課程教育を計画的に実施している。

教職課程における履修計画・内容等についての指導では、教職課程の関係教職員がシラバス作成における授業の到達目標や授業内容の共通理解を図っている。そして、教職についての理解を深めるための指導では、教職ガイダンスによる教職課程履修学生を関係教職員が常に把握し、これらの学生に対して『白鷗大学教員免許状および資格取得の（学年別）』の冊子を活用しながら教職課程の履修計画や学習内容等について指導を行っている（資料1）。

また「学校支援 ボランティア」や「学校インターンシップ」の導入により、学生が学校現場での授業や部活動、事務的作業などに参加することで、早い時期から教職についての理解や教職の仕事内容を把握し、自分の適性や教師に求められる資質・能力の理解促進を図っている。

さらには、教育実習や進路選択では、関係教職員が「教職支援センター」において、教育実習や個別指導、教員採用試験対策等の進路指導を行っている。

執筆担当者の氏名を明記する。

観点に基づき現状を判断し、記述する。

取組みを行う上での基本的な考え方（方針等）を明確に記述する。

方針等の内容は、根拠資料・データから具体的に分かるようにする。

必要箇所は「」を付し引用し、資料を明記する。

課題と解決策

- ・自己点検・評価活動に関わったことのある教職員が少ない
→教職支援センター委員が確認しやすいよう、**点検・整理表を配付**

表4 教職課程の自己点検・評価シートの点検・整理票

1 執筆上の基本的体裁について

点検するための観点項目	点検
① 現状説明、長所・特色、取り組み課題、根拠資料の4点を網羅している。	
② 字体がMS明朝・10.5ポイントで、1000字程度を目安に記述している。	
③ MS-WORDで、かつ常体「である調」で、数字1桁は全角、2桁以上は半角で記述している。	
④ 根拠となる資料・データ等に資料番号、資料（データ）名、出典、年度、ページが付されている。	

2 現状説明

点検・整理観点	点検
⑤ 最初に取り組みを行う上での基本的な考え方（方針等）を記述している。	
⑥ 次に取り組み観点（評価基準）に基づきながら、現状を判断して、具体的に記述している。	
⑦ 必要な箇所を「 」を付けて引用し、資料・データ名及び出典（かっこ書き）を付記している。	

3 長所・特色

点検・整理観点	点検
⑧ 教職課程の理念・目的の実現に資する事項、教職課程において先駆的又は独自性のある事項であり、有意な成果がみられる（期待できる）ものとして記述している。	
⑨ 根拠を示しながら具体的に記述している。	
⑩ 特に取り上げるべき「長所・特色」に該当する内容がない場合は、「なし」と記し、その理由を簡潔	

実施後の取組

- 教職課程等の改善に向けて
 - ・報告書の全教職員への配付
 - ・FD・SDについて、報告書の結果を考慮
 - ・実施方法・分担等について課題の把握し、2023年度の計画に反映
- 広報
 - ・H P での報告書の公開
 - ・取組の状況について教職支援センター年報に掲載（教育実習協力校などに配付）

2023年度に向けた課題

- ・自己点検・評価の分担（基準領域・項目と既存の組織の不整合）
- ・自己点検・評価のためのエビデンス（蓄積されていない。保存箇所が不明等）
- ・自己点検・評価の価値・必要性に関する理解が十分とは言えない

2023年度 教職課程の自己点検・評価：概要

方針

・2023年度より、教員養成に携わる教職員が、教職課程の自己点検・評価の実施による本学の長所や課題を共通認識することを通して、教職員の協働意識の向上を図るとともに、教育課程や授業科目の改善方策の立案・実施につなげていく。

2023年度の変更点

・教員養成に携わる全教職員が、教職課程の自己点検・評価チェックリストシート（全項目）について記入する方法とする。

スケジュール

2023年 5 月	教職支援センター： 自己点検・評価の実施方針の決定
7 月	教 授 会： 自己点検・評価チェックリストシート作成依頼 自己点検・評価チェックリストシート作成の共通理解 教職支援センター： 自己点検・評価チェックリストシート作成のための情報・データ等の連絡・調整
8 ～12月	全 教 職 員： 各自が授業・業務に合わせて自己点検・評価チェックの実施 →自己点検・評価チェックリストシートの作成・提出 教職支援センター： 教職協働を基本に据えた作業分担の下、自己点検・評価チェックリストシートの点検・整理
2024年 1 ～ 3 月	教職支援センター： 自己点検・評価チェックリストシートのとりまとめ 2022年度の教職課程の自己点検・評価報告書への朱書き修正

2023年度 教職課程の自己点検・評価：概要

自己点検・評価チェックリストシート

令和5年度 教職課程の自己点検・評価のチェックリストシート

点検者氏名【 ○○○○ 】

基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目1-1 教職課程教育に対する目的・目標の共有

【趣旨】

本学は開放性の原則の下、教員養成を行っている。したがって、本学の学生や地域、ひいては国全体の実態を踏まえて、最も良い教員を養成するべく建学の精神に基づいてその養成に取り組むことが本質である。

教職課程の目的・目標は教育活動を進めていく上での基本となるものであり、かつ教育活動の有効性を検証するための評価項目としての性格を有している。この教育目的・目標をより具体化したものが育成を目指す教師像であるという理解に立てば、教職課程教育を通して育まれるべき資質能力を示した学修成果(ラーニング・アウトカム)が具体的に提示されていることが必要である。そして、それらが教職課程で学ぶ学生間、教職員間で周知され、共有されていることが求められている。

＜取り組み観点＞

観点1：育成を目指す教師像の実現に向けて、関係教職員が教職課程の目的・目標を共有し、教職課程教育を計画的に実施している。

観点2：教職課程教育の質の向上を図っている。

観点3：教職課程教育の目的・目標を設定し、育成している。

・判定基準Aに「○」を記入した項目については、本学の教職課程の「長所・特色」を有する独自性があると判断できる事項であり、今後有意な成果が期待できる内容であるため、判断した理由について、箇条書きで記述する。

・判定基準Cに「○」を記入した項目は、本学の教職課程として相応しい基準を確保するための課題であり、また教育理念・目的を実現するための課題であるため、判断した理由について、箇条書きで記述する。

判定基準（A：取組が特筆すべき水準にある B：概ね適切な取り組みである C：取組が標準的である）

点検・評価項目	自己評価の観点	A	B	C
基準項目1-1 教職課程教育に対する目的・目標の共有	① 教職員が教職課程の目的・目標を共有し、計画的に実施している。		○	
	② 教職課程教育を通して育まれるべき学修成果を具体的に提示している。	○		
	③ 教職課程教育の目的・目標と共に目指す教師像を学生へ周知している。		○	

■判断した理由